

令和2年度第2回鎌倉市青少年問題協議会 議事概要

【日時】 令和2年10月29日（木）14時00分から15時30分

【場所】 鎌倉商工会議所 102会議室

【出席者】 敬称略

(1) 委員 7人

(2) こどもみらい部

平井あかね（こどもみらい部長）

瀬谷公重（こどもみらい部次長兼青少年課長）

(3) 事務局 3人

芳賀弓子（青少年課課長補佐）、田中翔太（青少年課担当係長）、渡邊千晶（事務職員）

【資料】

1－(1) 子ども・若者育成プラン(案)

1－(2) 第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画抜粋

【概要】

事務局から平成28年及び令和2年の成人のつどいで実施したアンケート結果、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う学校の臨時休校に関するアンケート結果、放課後かまくらっ子ボランティア参加者へのアンケート結果の報告を行った。

各委員からのご意見、ご提案は次のとおり。

【質疑応答】

加藤会長：今回はアンケートの内容及びプランの内容について検討していきたい。

アンケート毎のまとめを見ていただいて、意見があれば発言をお願いしたい。

千代委員：成人のつどいや新採用職員のアンケートについて、地域貢献に関心がある、地域のイベントに参加したいという回答が多いが、これはどういう意味での参加なのか。地域で活動している側からすると、地域での企画や、イベントを運営する側に参加してほしいという思いがある。例えば、お祭りがある場合、行ってみようという参加の仕方なのか、社会貢献、ボランティア活動という、企画の段階からの参加の仕方なのか。興味がある、関心があるというだけでは、能動的で参加とまでは読みきれない。働きかけていかなければと思う。

加藤会長：そこまで踏み込んでいないとは思いますが、市の印象としてはどうか。

芳賀補佐：企画から参加という提案をしているわけではないが、学校でもボランティアに関する授業が位置づけられており、興味はあるが、参加の仕方や、どういうところに自分たちが求められているのかという情報が形にできていないことが問題の一つと思っている。何か良い形で高校生、中学生に対し、発信していく立場に市もならなければいけない。

加藤会長：様々な地域イベントがある中で、一步踏み込んで、一緒に企画し、参加していくところまで中

学生、高校生を巻き込んでいくのはどうか。

下山委員：青少年指導員はジュニアリーダーズクラブと子どもキャンプを実施している。

ジュニアリーダーズが33名ほどいた時は、彼らが中心となって、活動していた。今は、中学・高校の勉強、部活が忙しく、参加することが難しくなっている。

キャンプの内容を企画を任せるので、一緒にやっという提案を毎回している。大学生が中心となっているが、時間が取れないことから、企画まではできず、キャンプファイヤー、ゲームなどの一部分と一緒にやっている現状である。

加藤会長：一緒に企画をたてていくにはどうやって巻き込んでいくか。新採用職員の部分で特になければ、次の臨時休校に関するアンケートに進みたい。

伊藤委員：アンケートのまとめ部分ではなく、質問項目「3-2」とあるが、項目が抜けていないか。

芳賀補佐：項目については、「3」が正しい項目。「3-2」という表記は誤植。

千代委員：安全・安心という点で、自宅で過ごしている場合も、安全・安心が確保できていたのか、また、できていなかったかもしれない目線が抜けているかと思う。そのような目線の分析もあっていいと思う。自分がかかわっている二十歳の男の子がいるが、大学の授業がリモートになり、当初はパソコンがなく実際に授業が受けられなかった。リモートでの授業が受けられるようになって、友人関係が繋がらない、大学に行くこともないので会えない状況で、自分が大学生でいいのか、大学に行く意味があるのか悩んでいるという話を聞いた。自宅は安全かもしれない、授業が受けられる環境も恵まれているかもしれないが、学生としての本分、できることに対し、不安になっている。肯定的な意見、評価が多いが、そうでなかった人に対してどうなのかと疑問に思った。

加藤会長：教育委員会での印象はいかがか。

齋藤委員：子どもたちは全体的に家庭の中で過ごせていたこと、教育委員会で子ども達がリモートできる環境を整えた。小学生であれば、朝の会を一齐に行うため、時間になるとパソコン・タブレットの前に座り、一緒に朝の会の時間を過ごす。先生方も児童の生活すべては把握できないにしても、リモートをやっている間は、子ども達の安全や、健康状態をつかむことができたという話は聞いている。

ただ、リモートでの朝の会の実施までに、機械の設置や配付に時間がかかってしまったこと、保護者が機器を使用していると、子ども達がリモートに参加できない場合もあるということで委員会が準備をしたという状況を聞いている。

加藤会長：PTAではこのような話は出ているか。新型コロナウイルスで休校中、子どもや保護者は何を感じていたか。

長谷川委員：PTAでまとめているわけではないが、保護者、メディア等の情報によると、勉強に関しては、カリキュラム通り進んでない部分があり、学校側も大変だったと思うが、子どもも含めて不安に思っている保護者が多かったと聞いている。アンケート結果には出ていないが、ネット依存について、通常でも6人に一人と言われている中で、今回、新型コロナウイルスで外出できなくなった時に、インターネットに接触する時間が増えているのではないか。スマートフォンパソコンを見る時間は長くなっている。アンケート結果の、ゲームができて良かった等の結果は出ており、著しくネット依存が見られる感じではないが、実際にはどうなのか気になると

ころではある。

加藤会長：今後、自粛することが増えると、インターネット等接触する機会も増える。これについては注意していかなければいけない重要な点である。続いて、かまくらっ子に参加した大学生ボランティアのアンケートについていかがか。

下山委員：ジュニアリーダーズの中で参加している大学生が2名おり、とても楽しく関わっていると聞いている。ジュニアリーダーズは、もともと子どもたちに関心を持つ子が多いので、将来を見据えながらかまくらっ子に関わっているのかと思う。他にも、ジュニアリーダーズの中でボランティア活動をした中学生、高校生、大学生がおり、見ただけだったが、子どもとの関わり方の勉強になったと報告を受けた。

加藤会長：かまくらっ子は放課後の子どもたちが安心、安全に過ごせる場所、多様な活動ができる居場所ということで市内小学校16校に取り入れる事業。主に大学生が参加して、子ども達と関わる中で、学生達にも変化が見られるため、良かったという印象がある。さらに、中学生や高校生が関わってくると良いと思う。

それでは、アンケート調査結果から見える青少年の現状について見ていきたい。

成人のつどい等のアンケート結果、進学や就職する将来に対する不安は高い。悩みや困っている人ほど、一人が居心地良いと感じている一方で、社会参加に関心が高いといえる。ただ、困っている人ほど、そういった関心が高いという結果がでていいる。一人でいたいという意見も多くあったが、同時に、寂しくて何か一緒にやりたいという意見も見られた。ボランティアか何かで参加したい声が多かったという評価について、どう感じるか。

石井委員：今回のアンケートの結果から言えることなのか、言い切れることなのかと思う。

伊藤委員：8ページの質問項目4-2で、居心地の良い場所とあるが、平成28年度と令和2年度とで大きく変わっている。平成28年度は、他者と共有する、人とのコミュニケーションをとることで自分の居場所があると感じる傾向が見られたが、令和2年度は逆転し、自分ひとりの場所に居心地の良さを感じている。この部分に社会状況と、子どもたちの生活の変化が表れていることが非常に気になる。また、25ページの文言の中で、「自分らしい生き方を模索したいという表れではないかと考えられます」とあるが、ここは違うと感じる。他の部分はアンケート結果であって事実、この文言は、作成する側の想像、考えている部分であり、断言することではない。

加藤会長：8ページの居心地の良い場所について、平成28年度と令和2年度と結果が異なるが、これをどう解釈するか。平成28年度は、一人での場所が15人、他者と一緒にいる場所は113人。令和2年度は、一人での場所が138人、他者という場所が83人と少ない。この表を見てどう感じるか。

下山委員：アンケートの実施方法について、平成28年度は直接聞き取りをし、令和2年度は書面で実施した。

芳賀補佐：その通り。内容は同じだが、令和2年度とは方法が異なる。そのため、聞き取りと比べ、書面は回収率が異なる。

下山委員：平成28年度は、青少年指導員が聞き取りを行った。集団で一緒にいた雰囲気の中では、このような結果になるのではないかと思います。

加藤会長：実施した場所、アンケートの方法が結果に表れている。

長谷川委員：ここまでの差は出ないかもしれない。仮説ではあるが、スマートフォン等用いることで、一人でいても友達とつながったり、楽しんだりする方法が増えてきている状況。この4、5年の間でそのような人が増えていると感じる。選択肢が増えていることが、一つの要因としてあるのではないか。

齊藤委員：ICTが子どもたちにとって非常に身近になっている。学校においても、先生が一斉に授業しているが、すべての時間が一緒かというのではなく、課題によってはタブレット等を活用し、調べている。調べることができる技術を持っている。家庭でもその知識を使って過ごしている。何をしているのか聞くと、ネットで調べ物をしているという。ゲームもするがそれだけではない。人ともつながりやすい世の中になった。何かがあるとすぐ調べ、有効に使っており、そのような時代がきていると感じる。

加藤会長：一人に対応できる、一人で過ごせる力がついている。一人でいる時間が居心地良いということが、少し前の時代からは増えてきている。

千代委員：同時に連帯感がつながるようになってきているとも言われている。

加藤会長：8ページ質問項目5の地元のために何かやってみたいかについて、平成28年度は全体的に少ないが、令和2年度は半々くらいの数字となっている。一人でいる時間が多くなって居心地よいと思っているけど、同時に何かやってみたい、人と関わりたいという気持ちが出てきている。

千代委員：会いに行かなくてもスマホでつながっており、すぐに情報交換ができる。一人ではなく、友達と一緒にやっていると最近特に聞く。25ページについても、「一人で居心地が良いと感じる一方で、地元のためにボランティア活動など、社会参画への関心が高いといえます」と、ここまで断定できるのか。やりたいとは思っているが、社会参画するということへのつながりは、もうワンクッションあってもよい。

加藤会長：25ページについて、人とのつながりをもとめていることはわかる。それがボランティア活動に対する関心に言えるのか。自分らしい生き方を模索したいあらわれでもある。自分らしさを求めているという内容の質問はしていないため、こちらとしての思い込みがある。逆に言えば、委員会として自分らしさ、生き方をしたいということ踏まえて考えていくことが望ましい。

石井委員：ボランティア参加へのアンケートについて、ボランティアに参加した主な理由を見ると、宇宙科学、JAXA興味関心、自分の関心と結びついたからなのか、部活動やサークル等の活動としてやっているのか、自分にとっての利点が強く働いたボランティアだったのかと思う。一般に言うボランティアとは違うのかと思う。

加藤会長：PTAから見て、中学校でのボランティア関心度はいかがか。

長谷川委員：はっきりではないが、気持ちはあると思う。どこまで具体的かはおいて、世の中の雰囲気としてはあると思う。例えば、学校ではSDGsについて教えられており、小学生から学んでいる。世の中のため、地球のために良いことをやりたい、クラウドファンディング等、人を助けるためにみんなで寄付をする、インターネットやスマートフォンで検索すると情報が入ってくる。そのため、自分もという気持ちはあると思う。どこまで具体的に、身近なところでボラ

ンティアにつながっていくかは、この先の課題。この仮説通りであるとする、かまくらっ子は素晴らしいと思う。先を急ぐわけではないが、子どもたちの背中をどう押せるのかがポイントだと思う。まず、活動をしていることをどうやって知らせるのか。学校からか、口コミなのか、目の前にこういう活動をしていることを教えたらたくさん参加してくれるのではないか。

伊藤委員：学校でもボランティア活動があるが、子どもたちに言っているのは、困った人がいたら助けるようにということ。活動のための活動ではなく、その時々で自分でこうした方良いとできることが大事。近隣の方からの連絡で知るが、子ども達は登下校でお年寄り、認知の方を助けたりしているが、自分から助けたことを言わない。人の役に立ちたいという気持ちは十分にあると思う。参加の仕方は、組織的にやるのは難しい。そのような経験を色んなところで実践することが、抵抗感がなくなるのかと思う。参加しても良いとわかれば、参加していくと思う。その第一歩を踏み出すためにチャンスを増やす必要があると思う。

加藤会長：スポーツの場面ではいかがか。

若木委員：様々な視点があるが、異なる視点で見たい。今、ボランティアが話題になっているが、特定課題に興味を示す人が非常に多い。AIDSのボランティアや海洋汚染のボランティアがあったが、高校生がたくさん集まっていた。スマートフォンでつながっているため、特定課題を発信するとたくさん集まる。これは中学生では難しいと思う。このプランが目的としているのは高校生以上を対象にしているため、関心がある人はすぐに集まる。必ずしも鎌倉市の中でボランティア活動する視点ではないと思う。

加藤会長：27 ページの計画の視点について、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画の中で、「SDGs」に加え、「共創」、「共生」を大きな柱として進めていこうとしている。SDGsのゴールである、貧困をなくすことや、経済成長、質の高い教育等、今の子どもたちは課題を持った関心がでてきている。自分がどんなことをしたいのか、うまく情報が回れば、子ども達は乗ってくるのではないか。これをうまく回すことが、学校でも地域でも、家庭でものばしていくことが大事なことかと思う。

下山委員：アンケートについて見て思ったことは、アンケートに答えられない方に対してはどうなっているのかと思う。

石井委員：確認させて頂きたい。子ども・若者育成プランといった時に、特に若者という範囲が広い。法律、背景、根拠になっているもの等、範囲は広いと思う。今回、15歳から大学生までの青少年を対象に考えているが、大学生ではない若者もいる。最初の資料は、30歳までだったが、内容を見て青少年対象だなと感じていたが、今回の内容が大学生までだったため、なるほどと思った。若者という少し疑問に感じた。大学生でもなく高校生でもない、仕事も今一つといった時に、支援は福祉の方だと、断りがあるが、ボランティアのところで考えた時に、パソコンなど様々なことができる特技を持った若者もいる。そういう子たちが子どもたちへ関わる、もしくは高齢者にかかわる点で考えた時に、もう少しボランティアは広く考えられるのでは。青少年というところで、それはよいが、その場合の子ども・若者育成プランの「子ども」の部分と大学生以上の「若者」に対して、市の方では何か他に施策の方針は。

瀬谷次長：指摘の通り、小学生・乳幼児については、子ども・若者育成プランではなく、子ども・子育てきらきらプランで整理をしている。令和元年度では、支援体制の充実について、20歳以上で

は特にフリーター、ニート等、困っている方への支援のあり方を、庁内のひきこもりに関する連絡会の中で検討してきた。世代で区切った支援が難しくなっていることで、家庭、経済面を含めて、総合的にフォローする方がより良いとのことで、この令和2年4月から福祉部門で担っていくこととした。青少年課も関わっていくが、主に福祉部門が主導に実施していくことになる。そのため、今回の改定では「支援体制の充実」については掲載していない。

加藤会長：29 ページで、施策の方針を出しており、目標とする町の姿が記載されている。このような大きな目標があり、施策の方向性として、地域の中で安全・安心な場所を作る必要があること、多様な経験をし、多世代との交流が必要であること、最終的には地域の担い手として、自立した大人に成長するための支援を進めるという方向性が記載されている。施策の展開として、図書館、自習室を作るなどの場所の提供、青少年が自ら企画・運営していくこと、青少年が身近地域の中で社会参画ができる体制づくりを進めること。かまくらっ子において、高校生・大学生がボランティアとして参加できる場の提供、中学・高校で情報共有のための関係づくりや体制づくりを進め、青少年のニーズを把握すること、中学・高校との連携を強化し、ボランティア活動やインターンシップ等の機会を増進するといったようにまとめており、今後、修正し、議会や市の中で議論して改定していくこととなる。

29 ページには、重点事業としてあげられている、放課後かまくらっ子は、機会を作っていくではとても重要。また、育成事業として青少年団体の協力によって、ジュニアリーダーとの育成、成人のつどいを開催するなど、発達段階での社会参画の機会を作っていくこと。子ども会、町内会のイベントにジュニアリーダーが参加できるような体制を作っていく。これらを主な目的に、このプランを実行していこうと、まとめているが、全体としていかが。

千代委員：かまくらっ子について、自分の西鎌倉小エリアは、今年からスタートになっていた。腰越も同様。新型コロナウイルスの関係で、全くスタートが出来なかった。4月から開始するために、年明け頃から会議を設け、地域でもいろいろな提案をしていたが、地域での話し合いもストップしてしまった。新型コロナウイルスにより、何もかもを中止にするのではなく、動けるようになったら、早めに準備し、蓄えの年として企画を考えている。かまくらっ子は長い時間をかけて、来年こそはスタートできるような形にしたい。かまくらっ子を推進事業は、現実どこまで出来るかというところが気になる。

瀬谷次長：分散登校が終了した7月から徐々に放課後かまくらっ子を再開している。地域の方々を招いてのプログラムについては、月に1回程度外部の方をお願いしながら進めているところ。西鎌倉も腰越も、月に1回程度外部の方をお呼びし、それ以外の場合は、施設支援員や、コーディネーターが週に一度、プログラムを実施しており、事業として止まってはいない。地域の運営協議会の開催については、この状況下でどこまでできるかは判断が出来かねるところだが、少しずつスタートしたいと考えている。

加藤会長：貴重なご意見をいただいた。これらを反映した形で、子ども・若者育成プランを改訂していきたい。

芳賀補佐：今後のスケジュールは、この会議での意見を反映し、庁内の各部から意見をもらう。それを修正し、市民を対象とした、パブリックコメントを実施する予定。そこで出た意見をもとにさらに修正後、次回3回目の協議会で示せるようにしたい。